

風土記の丘の花だより⁸³

今、そしてこれから見られる植物(2021年4月24日)

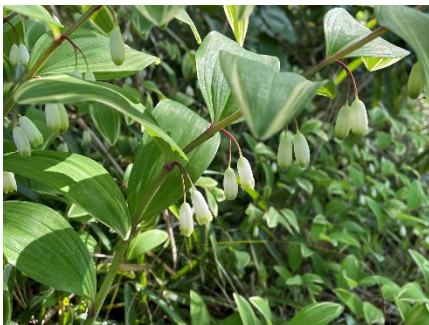
駐車場から山を眺めると、黄色っぽくモクモク盛り上がったように見える所があります。それはシイノキの花です。それよりもっと白っぽく見えるのはクロバイの花です。遠くからこんなにはっきり見える花も珍しいですね。そのクロバイの花を近くから



から見ると左の写真のようです。小さな花が集まって穂のようになっていきます。それがたくさん集まって盛り上がるように見えているのです。花は高い枝に咲くので、こんなに間近で観察できることは少ないのですが、西のトイレから少し下った所の木は手の届く枝にも花を付けていますので観察しやすいです。花の期間が短いので、早めにご覧ください。



フジの花もきれいに咲いています。広場の藤棚のフジも、もちろんきれいですが、野山に自生するフジもまた風情があってとてもステキです。光を求めて上へ上へ、明るい方へ明るい方へつるをのびし、思いのままに花房を垂らしています。この山に自生しているフジはノダフジという種類です。写真は池の畔で撮影したものです。



アマドコロの花が盛りを迎えています。葉に斑の入った品種もありますが、自生するものには斑は入りません。長く伸びた茎から白い提灯のような花をたくさんぶら下げます。根茎が甘いので、甘いトコロ、すなわち甘い山芋ということが名前の由来だそうです。柳川家の庭や、その南の山裾、または万葉植物園などでも見ることができます。



オニノゲシの花が咲き始めました。1mほどになる大きな草です。草むしり大好き人間には憎っくき厄介者でしょうが、野の花好きの私たちは、この花も他の花と一緒に愛でてあげることができますね。ハルノゲシとそっくりですが、全体に大きく、太く、トゲトゲがきついで、早く見ないと刈り取られてしまうこと間違いなし！

松下